

2013 年以降の対策・施策に関する報告書  
(骨子・素案)

※青太字の箇所が小委員会で御議論いただく内容

1. 検討経緯・検討方針・検討プロセス

(1) 中央環境審議会における検討経緯

～小委員会の検討方針等から記述

(2) 政府全体での検討経緯

～小委員会の検討方針等から記述

(3) 検討内容

～小委員会の検討方針等から記述

(4) 選択肢の原案を検討するに当たっての基本的考え方

～小委員会の検討方針等から記述

2. 気候変動に関する科学的知見

～第 101 回部会の議論を踏まえて記述

3. 国際交渉の状況

～第 101 回部会の議論を踏まえて記述

4. 我が国のこれまでの取組と温室効果ガス排出量及び吸収量の状況

～京都議定書目標達成計画の進捗状況を基に記述

5. 2050 年までの長期目標を視野に置いた持続可能な低炭素社会の将来像

～マクロフレームWG、技術WG、地域づくりWG等の報告を踏まえて記述

6. 2020 年及び 2030 年までの国内排出削減対策の複数の選択肢の原案

(1) 複数の選択肢の原案作成に向けたケース分けの考え方

～対策・施策の強度、原発の想定、成長率の想定によってケース分け

1 (2) 国内温室効果ガス排出削減に関する部門別の検討

2 ①産業部門

3 ～低炭素ビジネスWGの報告とそれに関する議論等を踏まえて記述

5 ②運輸部門

6 ～自動車WGの報告とそれに関する議論等を踏まえて記述

8 ③業務・家庭部門

9 ～住宅・建築物WGの報告とそれに関する議論等を踏まえて記述

11 ④エネルギー転換部門（エネルギー供給WGの検討）

12 ～エネルギー供給WGの報告とそれに関する議論等を踏まえて記述

14 ⑤非エネルギー起源温室効果ガス排出削減

15 ～事務局及び農林水産省の説明資料とそれに関する議論等を踏まえて記述

17 ⑥分野横断的な取組、基盤的な取組

18 ～地域づくりWG及びコミュニケーション・マーケティングWGの報告並  
19 びに事務局説明資料とそれに関する議論等を踏まえて記述

21 (3) 各ケースの経済への影響・効果分析

22 ～今後の小委員会及び部会の議論を踏まえて記述

24 (4) 2020年及び2030年までの地球温暖化対策の複数の選択肢原案

25 ～国立環境研究所の報告及びそれに関する議論を踏まえて記述

26 ～地域づくりの取組等の定量化できない事項も含め記述

28 (5) 複数の選択肢の原案の評価

29 ～今後の小委員会及び部会の議論を踏まえて記述

31 7. 国内の吸収源対策

32 ～第104回地球環境部会の議論等を踏まえて記述

34 8. 国際貢献を通じた排出削減

1                   ～第 104 回地球環境部会の議論等を踏まえて記述

2

3   **9. 適応策**

4                   ～第 104 回地球環境部会の議論等を踏まえて記述

5

6   **10. 2013 年以降の地球温暖化対策・施策に関する計画策定に当たっての提言**

7                   ～今後の小委員会及び部会の議論を踏まえて記述

8